

彩の歳時記

平成二十九年 六月

我はけさきうひにぞ見つる花の色を あだなるものといふべかりけり

紀貫之【866?~945?】

「私は今朝初めて「さうひ」を見たよ。(昨日は見なかった)この花の色は移ろいやすいものだねえ。」

今朝(けさ)の「さ」と初(うひ)をつなげ「さうひ」と詠んだ技巧に富んだ古今集の名歌。

日本の薔薇の原生種は「うばら」「いばら」と呼び、唐来の物は漢語「蕃薇」と書き

音読は「しやうび」「さうび」と呼んで在来の薔薇とは別物。六月の誕生花で季語は「夏」。

花言葉は「愛情」。バラの歴史は古く、五千年前と言われ、クレオパトラはシーザーを

ふんだんのバラの花の香りで歓待し、ナポレオンの妻ジョセフィーヌの愛好は有名。

長崎のハウステンボス「バラ祭」【5/13~6/5】は、アジア最大級で2000種・120万本

が咲き、園内はライトアップされ、バラの運河やナイトローズなど、昼夜をとわず楽しめます。

六月の暦 水無月(無)は連体助詞(な)にあたるので「水の月」という意味。

一日 衣替え 日本特有の習慣。平安時代に宮中で始まる。現在は、官公庁・企業・学校などで実施。

きものは伝統を重んじ、布・仕立て・文様・柄なども衣替え。

「春すぎて夏来たるらし白妙の衣干したり天の香具山」持統天皇【645~703】

五日 芒種【二十四節気】 芒(稲や麦など穂)が出る穀物の種を蒔く時期。

紫陽花が咲き、梅の実が青から黄色に、蒸し暑くなり、梅雨入りの近さを感じる。

六日 お稽古の日 世阿弥【1363~1443】の『風姿花伝』に習い事を始めるには七歳(満六歳)とあり、

「六歳の六月六日」という言い回しは「江戸歌舞伎」の台詞が慣習化したと言われる

八日 長明忌 三大随筆「他に枕草子・徒然草」「方丈記」の作者・鴨長明【1155~1216】

の忌日。地震など大きな災厄が多発した時代に、その状況や自身の苦難の経験から

『無常』という境地に辿りついた。歌人・琴や琵琶の名手で、自らの芸術的感性

によって、無常の思想を『方丈記』として、格調高い文章にまとめ上げた。

漱石は「方丈記」を英訳、世界に紹介した。今の時代も私淑する作家が多い。

十日 時の記念日 1920年制定。「日本書紀」に「671年の6月10日に漏刻という水時計

を新しい台に置き、鐘や太鼓で人々に時刻を知らせたとある。

滋賀大津の近江神宮に、天智天皇が設置した漏刻の想像模型がある。

十一日 入梅【雑節】暦上での梅雨入り。「夏の始まり」。

十八日 父の日【第三日曜日】 父の日の薔薇を抱きて見せしこと 後藤夜半

十九日 桜桃忌 太宰の日・太宰治生誕祭 小説家・太宰治【1909~1948】の忌日。

1948(昭和23)年、愛人と東京の玉川上水に入水心中したのは6月13日。遺体は19日に発見され、

たまたま、太宰の誕生日でもあったことからこの日に。三鷹市の禅林寺で供養が行われる。青森生

まれ。昭和初期、一番の人気作家。享年39歳。五所川原市の実家、斜陽館

野バラ咲いてる山路を 二人で歩いてた

夏の太陽(夏の太陽)

輝いて(輝いて)

二つの影(二つの影)

うつしてた

今はない君の面影

求めひとりぼくは行く

野バラ咲いてる山路を

ただひとり行く

二十一日 夏至【二十四節気】 一年で昼間が最も長く、冬至と比べると四時間以上。

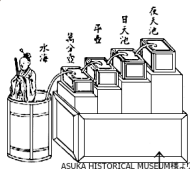
三十日 夏越しの祓え 半年間の罪と穢(けがれ)を払い清める神事で

疫病よけの茅の輪くぐりの行事が多く、の神社で行われる。



六月の歌 野バラ咲く路 詞・曲 六代目・市川染五郎(現・九代目・松本幸四郎)

発売は1967年。当時、歌舞伎役者が歌を出す、しかも自分で作詞・作曲したというので、大きな話題になった。次女の女優・松たか子がカバーしている。



漏刻

